

第2回鳥取・広島両県知事会議

日時 平成24年8月27日（月）13:40～15:00
場所 鳥取県立夢みなとタワー特別会議室

○司会 それでは、ただいまより第2回鳥取・広島両県の知事会議を始めたいと思います。

まず最初に、鳥取県の平井知事よりごあいさつ申し上げます。

○鳥取県知事 皆さん、こんにちは。本日は湯崎知事初め、田邊様や胡家様初め、広島の関係者にもお越しをいただきまして、こうして広島県、鳥取県両県の知事会議を開催することが相なりました。これも皆様の御協力のたまものでありまして、心から感謝をし、鳥取県民を代表して御歓迎を申し上げます。

ただいま、大変暑い中ではございましたが、水木しげるロードを歩いていただきました。最後には、まんが博の一つのイベントでございます「妖怪の森」の方も訪ねていただきまして、現在、鳥取県で開催中の国際まんが博のテストを感じていただけたのではないかと思います。

広島県は、中国地方の人口の集積地であり、産業の集積地であります。そして、山陽側に立地をしています。鳥取県とはいろいろと対照的なことも多いようではあります、恐らくお互いに補い合う関係であろうかと思います。

私たちは、これからの地方分権の新展開をにらんで、広域連合について話し合いを始めました。この広域連合に代表されるような連携をきちっと強めていかなければならないと思います。幸い湯崎知事は、同じような年代ということもありまして、これまでもいろいろと意見交換をさせていただく機会がございました。今日のこの貴重なタイミングを利用させていただきまして、大いにきずなを深め、共通の課題を見出していきたいと思います。

例えば観光では、広島県でこれから菓子博が行われますし、今は厳島神社を初めとした平家物語ゆかりの地が大にぎわいがあります。鳥取県では国際まんが博が開かれています。小さな中国地方の中での出来事でございますので、こうしたところの連携を深めて、インバウンドを初めとした海外誘客、国内誘客を図っていく、そのタイミングではないかなと考えております。

ちょうど昨日も、（NHK大河ドラマの）平清盛が、いよいよ厳島神社の設計図を持ち出しまして、これから造営に入るというところで昨日は終わりました。いよいよ「平清盛」も佳境に入ってくると思いますけれども、鳥取県にも、前も申し上げたと思いますが、平家のゆかりもいろいろございまして、若桜という町の山奥の方に行きますと、落折という村があります。そこで「平家さん」と声をかけると、みんなが振り向くという、村じゅうみんな落人でございまして、そういうような町があった

りしますし、かく言う私も平家の末裔でございますので、何かとゆかりを感じるわけでございますが、さまざま、つながりを生かした連携を観光面でもやっていければと思います。

産業面でも、今日お訪ねいただきました境港からは、先ほどは隠岐の汽船が入ってきたばかりでありましたが、DBSクルーズフェリーを初めとした海外航路が開かれています。マツダがこれからロシアでの生産を開始するというお話がございますが、APECが始まるロシア、さらにはアジアというものは、中国地方にとって大切なパートナーになり得ると思います。その意味で、山陰側の玄関口として、鳥取県のようなところも活用いただけるのではないかなと思います。

さらに福祉面でも、お互いの意見がとつても合う両県でございます。これまでも子育てについて話し合いをしてきましたし、障がい者福祉についても話し合いをしてきました。そうした運動を一層広めて、今日、ぜひ、一定の今後の行事や事業につきまして合意が得られればと考えております。

今、国政は大荒れであり、内憂外患という状況であるからこそ、地方が手を結んで、しっかりと底力を出し、県民の安全や安心を図っていく必要があろうかと考えております。国土の骨格をもう一度、震災後に練り直すという戦略を定める時期でもあります。ぜひ湯崎知事の忌憚のない御意見もいただきまして、両県の意味疎通を図り、実り多い会議の行く末に、中国地方の未来が見えてくるように願っているばかりであります。

本日の御来県、重ねて感謝を申し上げまして、歓迎の言葉とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○司会 ありがとうございます。

続きまして、広島県の湯崎知事よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○広島県知事 広島県知事の湯崎でございます。本日は、ここ境港に訪問をさせていただきまして、まことにありがとうございます。

前回は、第1回の両県の知事会議を広島で行わせていただきまして、そのときは本当に、おいでいただきましてありがとうございました。

今回、今、平井知事の御紹介にありましており、水木しげるロード、それから「妖怪の森」を訪問させていただきました。この水木しげるロードは300万人を超える、一番多いときは370万のお客様を誘客するところというところで、私も大変に興味深く拝見をさせていただきましたけれども、本当に今日もたくさんのお客様がいらっやいまして、すばらしいなと改めて感じたところです。

また今、開催が始まりました、この鳥取のまんが博に関連したさまざまなイベント、既に開始以来、まんがワールドが6万ということで、大変にぎやかにお客さんが来ていらっやるといふことで、この元気を中国地方全体に広げていただければなと思うぐらい、本当にすばらしいと思っております。

ます。

鳥取県と広島県は、中国地方というところで、もちろん共通の地域でございますけれども、条件はさまざま、これも平井知事がおっしゃったように、違うところがございます。ただ、同じであると余り意味がないというか、それぞれ違いがあるところから、やはりお互いいいものを持ち寄って、より強くなれるという、そういうことではないかというふうにも思います。

今、本当に地方分権というものを進めなければならない、こう思っておるわけですが、その理由としては、私は、地域地域がやはり多様性を持って、新たなイノベーションをつくっていくことが必要であると思っているわけであります。従来の東京中心で、日本全国同じことをやるということではない、地域がそれぞれ知恵を絞って、そしてその中で日本全体としての多様性というのを確保していくことが必要だと思っております。

そういう意味で、地域分権を本気で進めなければいけないと思っておりますけれども、それぞれの地域の中でも、やはりいかに多様性をつくっていくかということが非常に重要なことだと思っております。日本海に面した鳥取県、そして瀬戸内で工業地帯を抱える広島県、この両県が手を取り合って、新たな地方分権、あるいは地域主権、そして地域の活性化を実現していきたいと思っております。

実は今日お昼はお魚をいただいたのですが、日本海の魚と瀬戸内海の魚はやっぱり違うのですね。これが一緒になると、こんな最強のお魚王国はないのではないかと思いますのですが、多様性というのは、まさにそういうことかなというふうに思います。

そういう形で、これから本当に新たなこの地平を切り開いていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。今日は本当にありがとうございます。

○司会 ありがとうございました。

では早速、これから意見交換を行っていただきたいと思いますが、まず、議題（１）の中国地方における広域連合につきまして、平井知事より発言をお願いします。

○鳥取県知事 それでは、これから話し合いに入らせていただきたいと思っております。

今、湯崎知事からも、大変力強い両県の連携に向けたお話がございまして、いろいろと時代は変わってきたかなと。やはり地方分権が本格化をしてきて、このように広島、鳥取県で、両県で胸襟を開いた議論ができるようになったと実感をいたしました。まず、そういう地方分権の扉を開くためにも、広域連合の今後の検討について、両県から中国５県に向かって提言をしていくべきかなと思っております。

パネルを用意させていただいておりますけれども、中国5県の、今、広域連合の検討、話し合いを始めたところでありまして、これから具体化をしていかなければならないと思います。湯崎知事の広島県議会でも、6月に議論をされたと思います。我々のところでも、結構いろんな議論が出ました。8月に入りまして、岡山県が、我々を代表して国の方に広域連合の手挙げに出ていったわけでありまして、何とかそうした広域連合を実現しようという方向に動き始めたと思います。

2つの意味があると思うのですね。1つは、地方分権の受け皿としての意味合いがあると思います。それは、国からの出先機関移譲を受けるためには、特定地方広域連合、特定広域連合というものになる必要がある。その意味で、広域連合をあらかじめつくっておく意味があるというのが1つあるかと思っています。あと、もう1つには、いろんな広域連携事業を進めていく、このことはお互いにとってメリットがあることでありますので、地方分権の法律がどうなるかはともかくといたしまして、私たちの方で、きずなを結ぶ意味で、土俵をつくっておくという意味合いもあるかと思っています。

それぞれの県で若干の温度差はあるとは思いますが、ただ、これから本格的に議論すべきタイミングに入ってくると思うのですね。岡山県の知事選挙が10月の末に行われることになると思います。山口県が先般、入れかわりました。広島もいずれ選挙ということはあるのでしょうけれども、そういう山口、岡山のメンバーがかわるタイミングで、どのように今後の議論のスタートを切るか、非常に重要だと思います。ぜひ、湯崎知事とは意思統一をして、広域連合の設立に向けて5県の中で強くリーダーシップを発揮していただければと思います。

いろんな出先機関の課題がありますが、まず経済産業局について、我々5県で移譲の対象にしようということは折りました。さらに、来月、10月に開かれる中四国サミットの中で、我々の方からも提案をし、四国側も恐らく同じ思いだと思いますが、地方環境事務所についての扱いを協議することになるかと思っています。できれば経済産業局だけでなく、地方環境事務所もターゲットになり得るところでありますから、我々としては主張してみてもいいかなと思っています。

また、広域連合をつくるためには、仕事を持ち寄り事務がございまして、これについては、広域防災と広域医療の2分野での持ち寄りを、あらかじめ6月議会段階で合意をしておりますが、先般7月にざっくばらんな意見交換をした際にも議論がございましたが、例えばそのほか、広域産業振興とか広域観光とか中山間地域振興だとか、そうした分野も入れて、多くの分野での連携を図ってはどうかと思います。

私も、関西広域連合の方で、今、共同での自治体運営ということで始めたところではありますが、つくづく思いますけれども、やはりそれぞれの県が何がしかの役割を持って、どこかが中心ということよりも、それぞれが分権的に、うちはこの仕事を中心でやりますよというのがあった方が、結束がか

たくなりますし、有機的な話し合いがやりやすくなるように思います。その意味で、そうした中国広域連合の将来の姿を見据えると、5県ですから5つぐらい、仕事の固まりを考えてやってみてはどうかというふうに考えております。

ぜひ湯崎知事にも、この意味で、広域的な連携組織ができるようにお力添えをいただきたいと思っております。

どうぞ、御意見をいただければと思います。

○広島県知事 ありがとうございます。

今おっしゃったように、我々、広域連合の設立に向けた準備と申しますか、検討を進めているところでありますけれども、まず、御指摘のあった2つの側面、分権の受け皿と、それから、それとは別に持ち寄り事務をどうするかという点が、おっしゃるような大きな課題になると思います。そして、受け取る事務も、今、経済産業局を中心ということでもありますけれども、他の事務についても検討を進めていくべきであろうと思っております。特に地方環境事務所につきましては、今度、中四国サミットがありますけれども、そこでも議題になる予定になっていると思いますし、これはどうしても、今の地方環境事務所の都合上、中国と四国を一つの管轄としておりますので、それをどうするかということは、しっかりと話をした上で、我々としては、できるだけコンセンサスが得られるようにしていきたいと思っております。

この持ち寄り事務なりも含めてなのですけれども、私としては、これは非常に、広域連合、重要なステップだと思っておるのですね。県内でも、市町との意見交換をしたときに、広域連合が何を指すのかということをご皆さん気にされていて、ただ広域連合が広域連合で終わることであれば、単なる屋上屋ではないかという議論もやはりございました。それに対して、我々の大きな考え方としては、やはりこれは一つのステップであると、さらにそこから国からの権限移譲をもっと進めていくという、その第一のステップであると御説明をして、納得もいただいたところですけれども、そういう意味では、ステップ、これはだんだんと発展をしていくべきものかなと思います。

最初は、小さく産んで大きく育てるといふか、それが大事なかなと思っております。今の受け取り事務と申しますか、移譲を受ける事務についても、それから持ち寄っていく事務についても、コンセンサスをつくりながら拡大をしていくということがいいのではないかなと思います。ただ、そういう意味で、最初の、今みんなで合意しているもので終わることではなくて、そこからさらに、いかに拡大をしていくか。ただ、5県の間関係を大事にしながらやる必要があるかなと思っておりますので、コンセンサスをつくりながら一段一段上がっていかればいかなと思っております。

特に、御承知のように、移譲の事務についていろいろ議論もありまして、それから持ち寄り事務に

についても、各県いろんな思いがあります。これまで、ただ、議論になっていなかった、例えば広域産業政策といったことは議論の俎上にもものっていないなかったので、逆に私は、これはまた皆さんで話を進めてみる価値はあるのではないかなと思っています。

いずれにしても、よくみんなで議論しながらやっていきたい。その方向としては、やはりそれを広げていくという方向で進められたらなと思っています。

○鳥取県知事 わかりました。大体話の方向性は一致していると思います。その意味で、どうしても事務ベースの折衝もあると思うので、この件については、10月にまた、中国5県で事務のあり方とか話し合いを企画あるいは地方分権ベースの部局で持とうということになっておりますので、そちらの方でよく話し合いをあらかじめやっておいてもらうことにしてはどうかと思います。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 できれば、今、湯崎知事がおっしゃったように、小さく産んで大きく育てるということではありますけれども、そうした従来の2つの分野以外のところも議論の対象にさせていただいて、いずれまた、議会と改めての協議もありますので、話をさせていただければありがたいと思います。

また、中四国サミットでは、地方環境事務所のことを両県で主張していくという方向で……。

○広島県知事 そうですね、はい。

○鳥取県知事 これも合意ができたのではないかなと思います。

広域医療や広域防災も密接に絡み合っていて、我々も今、頭を悩ませているのは原子力防災です。原子力防災は、もともとは島根原発、島根県さんの問題なのですが、島根県さんもそうだと思いますが、被曝医療対策というのはやっぱり広島に中心があるのですね。広島大学がやはり、西日本全体でいえば、頭一つ抜けた医療設備と人材を持っておられます。ですから、広域医療として、あるいは広域防災として、鳥取県の医療機関とネットワークを張っていただく必要があると思います。そういう意味でも、広域防災や広域医療というものが一体としてヘッドクォーターの中に組み込まれる広域連合の存在というのは、原子力災害でも大きな役割を果たし得るものではないかと思います。ぜひ御協力をいただければと思います。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 もしよろしければ、次のテーマでもいいですか。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 それでは、広域観光連携についてでございます。

パネルも若干、当方も用意をいたしておりますが、いよいよ松江尾道道路が完成時期に入りました。特に、もうすぐ中国縦貫自動車道まではつながるわけでありまして、26年まで見渡せば、尾道までつながってくると。周遊性のある観光ルートが組みやすくなっていくということになるかと思えます。鳥取県と島根県、岡山県、あるいは広島県、さらに山口県というところの広域的なツーリズムを、いろいろ考え得るのではないかと思います。

私の方から若干提案をさせていただければ、1つは、湯崎知事も非常に熱心にごやっておられるスポーツツーリズムであります。私たちは、来年10月に国際エコツーリズム大会を、鳥取県の大山で行おうとしております。そのことありまして、エコツーリズムとかスポーツツーリズムというニューツーリズムが今、脚光を浴びておりまして、いろんなコース整備などをしております。

県内でも、大山のあたりでは、ツール・ド・大山という自転車レースを毎年やっておりますし、さらに大山ヒルクライム、クライミング・ヒルですかね……。

○広島県知事 ヒルクライム。

○鳥取県知事 大山ヒルクライムという、どっちかという山にアタックするような、山道はこんなのですけれども、そういうマウンテンバイクのようなものを活用したレースも、この秋には行われるということもあります。しまなみ海道が恐らく自転車としては我が国の一つのシンボリックな名所だと思いますが、そういうスポーツツーリズムで、サイクリストたちが国際的に楽しめるような、そういう観光リゾートを目指したいと思っております、連携が可能なかと思えます。

先ほど申しました境港に着く船には、既に自転車を乗せてやってくる韓国人のツアー客が、少なからず見られるようになりました。船ですから、自転車を積んできて、そのまま走っていくと。何だったら、元気よく広島まで行ってもらってもいいぐらいではないかと思っておりますが、そういうことありまして、ツール・ド・アジアの大構想をいずれ目指す、その手前としては、ツール・ド・ジャパンを目指していく、それを湯崎知事の御協力でご実現できたらなと思っております。

また、観光では、いろんな集客イベントがこれから続くこととなります。鳥取県で今行われている国際まんが博は、11月25日まで行われることとなります。それから、今度は菓子博が来年の春の連休ごろに広島県で行われるなど、いろんな集客イベントがあります。ぜひ、そうしたこととタイアップして、お互いにPRをしながら、広域的なツーリズムを育てていけないだろうかと思います。

例えば、多分広島県さんも、よその県とやっておられるところもあると思えますけれども、広報媒体がありますよね、特に、「県政だより」と我々呼んでいるのですが、県の広報、住民向けの広報紙があらうかと思えます。ああいうので、我々も若干の県とやっておりますが、お互い協定を結んで、ページを割いて、それぞれにPRをしていく。中国広域連合という将来のシンボルもございませ

ので、こういう大きなイベントですから、お互いにそういう観光宣伝などをやってみてはどうかと思います。我々のまんが博だとか、我々の方では、来年の春、菓子博の宣伝をさせていただくとか、そういう協定といいますか提携ができれば大変にありがたいかなと思います。

また、これについては、海外からの誘客もあろうかと思えます。先ほどの船ではロシアのお客様さえ乗ってくるわけございまして、広島には台湾とか上海からの定期便もあります。韓国との間でも、広島、鳥取は同じアジアナグループが運営をしまして、そういう意味では誘客の親和性もあろうかと思えます。これから、海外からのプロモーションなども含めて、共同で提携してやっていければありがたいなと考えております。

ぜひ、また湯崎知事のお話もいただいて、少しこの方面でも前に向けられればありがたいと思っています。

○広島県知事 はい、ありがとうございます。

御承知のように、広島県は、今、「おいしい！広島県」のキャンペーンを展開させていただいてまして、いろいろあるのですけれども……。

○鳥取県知事 おいしい！広島レモン。

○広島県知事 そうなのです、おいしい！広島レモンとか。広島県はレモンの生産が日本一なのですよね。でも、余り知られていない。

○鳥取県知事 知られていないですね。

○広島県知事 惜しいなという。あとは、今それにちなんで、おいしい！メニューというの、各いろんなお店に協力してもらいまして。

○鳥取県知事 いろいろあるのですね、ロールケーキもあるのですね。

○広島県知事 そうなのですよ。それを「い」というのを真ん中に吹き出しで入れて、ポスターもつくってやっているのですが、こういう展開もしているのですね。

9月からは新しいキャンペーンを始める予定なのですが、ぜひ鳥取の皆さんにも来ていただきたいなど。

先ほど広報紙の提携というお話もございましたけれども、こういったことも含めて、やりとりができれば、我々もすばらしいと思えますし、今、既に広島は岡山……。

○田邊経営戦略審議官 岡山ともやっていますし、熊本ともやりました。

○広島県知事 熊本か。いろんなところとやらせていただいていますので、それはぜひ、お互いにメリットになると思いますから、進めさせていただければなど。

○鳥取県知事 そうですね、はい。では早速、それまた協議をちょっと煮詰めさせていただいて。

○広島県知事 インバウンドにつきましては、我々は今年、台湾、それから中国、それからフランスを主な主要ターゲットとしてインバウンドの展開をしております。そういう中で、特に、今お話のあった台湾については、サイクリングが非常に人気なので、サイクリングを中心とした誘客というのを、もう少し具体的に進められないかなと思ってやっております。

これは中華航空、チャイナエアラインは、広島に定期便がありますので、これも活用した誘客ということを進めてやろうと思っておりますけれども、サイクリングも、例えば広島空港で台湾から来ていただいて、そこを拠点に、またいろんなサイクリングのこのコースがあると、より魅力が高まっていくと思うのですね。そういう意味で、それぞれの地域のサイクリングに向けたブラッシュアップとか、例えばコースの整備も含めた、あるいは案内であるとか、そういうことも含めたものやっっていくことが必要ではないかなと思いますし、コースが増えれば増えるほど、デスティネーションないしは中継地として、この中国地方がデスティネーションとしての魅力を高めていけるのではないかなと思います。

そういう意味で、鳥取の方でそういう形でサイクリングに力を入れていらっしゃるというのは、我々としても心強いと思っておりますので、またぜひ御協力できればと思います。

○鳥取県知事 はい。

○広島県知事 あとは海外のプロモーションですね。これも、おっしゃるように、なかなか一県だけではというところがありますので、上海への関係もありますし、そこはできる協力を進めていくべきだろうとも思います。広島には、例えば温泉が少ないということもありますので、海外のお客さんはやはり温泉を非常に好まれていらっしゃるということで、愛媛であるとか、島根であるとか、あるいは鳥取、山口にも実は意外と温泉があって……。

○鳥取県知事 ありますね、山口市内にもね。

○広島県知事 そうなのです。そういうところとも連携をしながら誘客ができたかなと。そういう意味での連携というのも、これまた大事なことかなと我々も思っております。

○鳥取県知事 今の話、大賛成ですけれども、多分同じ方に会っていて、ジャイアントの会長さんにお互いお会いしていると思うのですが、ジャイアントの会長さんが、ツール・ド・ジャパンみたいなことを、日本側で真剣に考えてくれないかと言っていないですかね。そういう構想を、愛媛の中村さんなどもおられるでしょうけれども、日本全国が難しければ、西日本のこの中四国エリアだけでも、ツール・ド・ジャパンを名乗って始める、そういう方向性を今後出していければおもしろいかなと思います。

○広島県知事 そうですね。さっきの広域連合ではないのですが、小さく産んで大きく育てるという

のとちょっと違うのですが、実際サイクリングのイベントをやると、かなりいろんな課題がありました。

○鳥取県知事 まあ、そうですね。

○広島県知事 我々、具体的に考えてみると、やっぱりそういうのがいろいろ出てくるんですね。いきなり、それこそ世界イベントみたいなことをやってしまうと、これはなかなか逆に実現しないのではないかなという感じであって、むしろあるところで、少しずつうまくいかせながら、やっぱりこれだけ集客力があるよねとか、お客さんが来るよねというところで、だんだん次のステップに動いていくのがいいのではないかなと思います。

それぞれの地域の取り組みもありますので、鳥取の方で今度やられるヒルクライムとか、あるいはレースのイベント、これもぜひ成功させていただいて、我々も今、「大しま博」というものを愛媛とやる予定にしていまして、その関連でサイクリングのイベントができないかということを進めておるんですね。

○鳥取県知事 それは競技はないのですか、今、しまなみ海道は。競技のような、そういう。

○広島県知事 競技はないですね。イベントで毎年、今治市と尾道市が主体になってやっているものがありまして、これまでは競技的だったのですが、今年はファンライドになって、たくさんの方が参加をすることになったのですが、これもなかなか大変なのですよ。特に、皆さんイメージすると、あの橋を含めて高速を通るというイメージがあるのですが、高速は通らないのですよね、基本は。

○鳥取県知事 ああ、そうなのですか。

○広島県知事 通らないのですよ。高速を通ると、実は物すごく大変なことになって、というのは、高速とめなければいけないので。

○鳥取県知事 ああ、高速に側道がついているのではないですか。

○広島県知事 そうそう、そうなのですよ。

○鳥取県知事 そうですね。

○広島県知事 だから、一般道を走って、橋のところだけ高速の横を走っているというぐあい、高速は通らないのです。また逆に、一般道を走るのも、いろんな交通規制がかかるとか、いろんなことがあるのです。結構、車の通り、トラフィックもあるところなので、我々としては、課題を一つ一つクリアしながらですね。

○鳥取県知事 なるほど。

○広島県知事 特に警察関係とか安全確保の面が非常に大きいのと、お金もかかるので、やっぱりお客さんが来ていただけるという、そういうことを証明しながらやっていかないと、なかなか理解が得

られないということもあるので、そういうステップを踏みながら、こっちの方は、こっちもうまくいく、それで、じゃあまた合わせていくという、そんな感じで進めていくのがいいのかなと。

○鳥取県知事 わかりました。できれば、両県の観光サイドですかね、話し合いをさせていただいて、それで、統一したサイクリングの聖地がありますよという売り出し方をしてみるとか。

○広島県知事 そうですね、ええ。

○鳥取県知事 どうもアジア向け、台湾とか韓国は、この手のやつは有効みたいで、今、ブームとして。

○広島県知事 そうですね。

○鳥取県知事 ええ、この辺はやっぱりやっていった方がいいかなと思います。

○広島県知事 そうですね。アジアナであるとか、あるいは中華航空、チャイナエアラインとの連携のサポートは我々もできると思いますし、そういう形も含めて、報告しながら一緒に進められればなと思います。

○鳥取県知事 海外事務所はどこにあるのですか。

○広島県知事 広島はないですね。

○鳥取県知事 ないですか。

○広島県知事 実は、ビジネス向けの海外事務所というのは四川省に今度オープンしたのですけれども。

○鳥取県知事 四川省ですか。

○広島県知事 あと上海をちょっと検討しているという状況で、観光に関しては、事務所というほどではないのですが、現地代表を今年はフランスのパリに置いているという形です。

○鳥取県知事 上海、今から企画されるのでしたら、中国地方全体あるいは鳥取県との相乗りみたいなことは考え得るのですかね。

○広島県知事 それはもちろんです。そもそも……。

○鳥取県知事 実は我々も神原汽船ですよ、上海は。

○広島県知事 はいはい。

○鳥取県知事 多分神原さんの話も裏で絡んでいるのではないかと思うのですが、そういう意味で、代表からも前から、何かあそこにアンテナショップを考えてはどうかというお話もあって、ただ1県だけではなかなかね、オペレーションが難しいです。

○広島県知事　そうですね。

○鳥取県知事　ただ、上海などは、これから長い目で見ると、何らかの足がかりをつくらなければいけませんし、CLAIR（財団法人自治体国際化協会）のような共同の事務所も上海はないところですので、広島県さんとか、ほかにも興味があるところはおられると思うのですが。

○広島県知事　上海は我々も検討していますので、そこは、もし進めるということになれば、何かしらの御協力なりというのは可能だと思いますよ。

○鳥取県知事　今、観光協定も湯崎知事の去年のおかげで進みましたので、その面でも一緒にできればと思います。

○広島県知事　そうですね。上海というのは旅遊局との観光協定もありますし、それから今、中国地方発展推進会議での共同の動きというのもやっていますし、国交省をベースとしたプロモーションと一緒に5県でやらせていただいたりしているところもありますので、そういうことも含めて、上海のアプローチというのは共同でできるところはたくさんあると思います。

○鳥取県知事　ああ、そうですか。では、検討ベースに乗せさせてもらって、話し合いをさせていただければと思います。

○広島県知事　はい。

○鳥取県知事　今、話がそちらに向かいかけたのですが、広域産業振興ですね、いろいろ共同してマッチングをしたり、企業進出を支えたり、いろんなお手伝いができるのではないかと思います。ただでさえ、ネットワークの面でもつながり始めたところでもありますので、いろいろと可能な話はあるのではないかなど。パネルがあるのだったら出してください。

それで、先ほどちょっと、あいさつの中でも述べさせていただきましたように、マツダさんが、このたびロシアのウラジオストクの方に出られるという報道が出ています。実は我々、ウラジオストクは姉妹友好都市になっていまして、沿海地方は私どものパートナーです。そんなこともありまして、極東のソラーズという会社、工場に出かけたこともあります。恐らくそういう話だと思うのですが、地理的にも非常に港に近いところの立地が考えられようかと思っています。

これに限らず、ロシアは8月22日にWTOに加盟をしました。これからは余り一方的な話ができにくくなるはずでありまして、国際的な貿易ルールに従ってくる、そういう時代に入ると思います。また、来月の早々には、APECの首脳会議がウラジオストクで開かれることとなります。これらすべて、ロシアの戦略もございまして、アジアの方に橋頭堡をつくる、そしてアジアとの経済交流を進

めようという意思があるからにはほかならないわけでありませう。

いよいよ我々も、ロシアも含めて大陸側との交流を盛んにする必要があるだろうと思います。上海も、その意味で一緒にできたらなと思いますが、ロシアの方もそうであります。

DBSクルーズフェリーは、船の写真がございますけれども、毎週毎週、今、あちらの方に行っております。ぜひ山陽側の皆さんにも、こうしたユニークな航路、もちろん釜山行きなどは広島でも幾らもあると思うのですが、こういうロシア方面のも活用を考えていただければなと思います。

実は、広島の温州ミカンを去年売りました、これで持って行って。今年は広島産のブドウを、広島の経済連さんと一緒になって考えているところです。また、パプリカをこの同じ船で、韓国の産地に近いところに立ち寄るものですから、そこから輸入をしているのですが、パプリカの輸入は、福山の業者さんと、鳥取県の米子市の業者さんがタイアップしてやっている話であります。割とそういう意味で、実体経済は今、動き始めていると思います。ぜひ、自動車部品とかいろんな、これから物流や人の流れが始まると思いますが、山陰側も活用して行っていただければ非常にありがたいと思います。

あと、産業振興でもう1点申し上げれば、観点は違いますが、湯崎知事が力を入れておられる東京の銀座のアンテナショップ、銀座1丁目のところの非常におしゃれな街に誕生しました。ぜひ、滑り出しから、今後順調に発展していただければと願っているところであります。やはりメディア戦略だとか、あるいは市場戦略、マーケティングを考えますと、東京なり首都圏で十分顔を出していくことが大切だと思います。その意味で、湯崎知事と手を組んでやっていけないかなと思っています。私も鳥取県でも、実は新橋、汐留のところ、銀座8丁目のちょっと先のところにアンテナショップをつくっております。共同でいろんなイベント、仕掛けを、事業者を絡めてやれないだろうかと思っています。

例えば、東京の人から見ると、「えっ」という話がいろいろあるわけですね。おいしい！広島県がありましたけれども、おかしいではないかというぐらい不思議なこともあると。

広島生まれの西条柿というカキがあります。広島県でももちろん生産されていますが、鳥取県でも生産してまして、実は都内のデパートにも、あんぽ柿の状態で出荷をいたしております。こういうものは東京ではまだ余り売られていない、本来渋ガキなのですが、こんなに甘い、おかしいではないかと思ってもらえるようなものを売り出してみたらどうかとか。あるいは同じカキでも、オイスターの方ですね。広島のカキと、それから鳥取県の岩ガキ、これは季節が違うわけでありませう。しかし、安全なので、種類が違うから毒性がないと。そういう不思議なおかしいことがいろいろあるものだと。

おいしい！広島県、今度はおかしい広島、鳥取の連合という感じで何か使えないかなと。これは半分ジョークですから聞き流してもらったらいいいのですけれども、そんなことをいろいろ仕掛けてみて、アンテナショップも、ただ出しているだけですと、東京の星の数あるほどの中で埋もれてしまうところもあるので、共同でそういう話題づくり、キャンペーンを考えてみてはどうかと思っておりますので、御指導いただければと思います。

○広島県知事 はい。まず、ロシアについてですけれども、本当にロシアについてのやりとりというのは、平井知事も大変御熱心にやっておられて、我々もそれに倣うことができたかなと思います。

県内のロシアのビジネス需要というのはどれぐらいあるのかというのを実は我々も余りよく把握していなくて、例えばフェリー航路についてどういう需要があるかというのは、にわかにはわかりませんが、ただ、もちろん、商工会議所含めて、必要があれば御紹介させていただきますし、これが一つの展開のきっかけになれば、それは我々にとっても非常にいいことなので、何かできればなというふうには思います。

それから、農産物については、これもだんだんと拡大をしていただいております、ミカンあるいはブドウを広島からも出させていただいていると我々も理解しております。

これは、さらに広島県としては海外の市場、農産物の開拓は、今後の農業の発展には必要な視点だと思っておりますので、また、テスト販売などしながら考えていきたいと思っております。

広島県でも、実は今年はマレーシアと香港で販売の促進をやっておりまして……。

○鳥取県知事 それはすばらしいですね。

○広島県知事 特に流通ルートを押さえるという形で、イオンに御協力をいただいてやっているのですね。これは農産物だけではなくて、いろんな食品を持って行って、広島フェアみたいなことをやらせていただいたのですが、柑橘類は「はるか」を出して、というのは時期が6月だったのです。6月で、もう柑橘の端境だったのです。「はるか」はある程度できるということで、「はるか」を出したら非常に好評で売れたので、また柑橘の時期にもやりたいなという話をしているのですけれども。

それぞれいろんなルートがありますので、そこでの協力をしながら、ブランド力の向上とか、あるいは輸出のルートの拡大を図っていけたらいいのではないかなと思います。

○鳥取県知事 確かに余りかち合わないですね、作物がね。

○広島県知事 そうなのです、ちょっと違いますよね。

○鳥取県知事 違いますからね、山陰側と。

○広島県知事 ブランドをどういうふうにしていくかということが一つ、課題かなとは思っておりますけれども。

○鳥取県知事 ああ、はいはい。

○広島県知事 鳥取とか広島のブランドそれぞれでやってもいいと思いますし、何か共同で使えるものがあれば、またそれもいいかなと思います。

あと、アンテナショップの件ですけれども、我々は実はブランドショップとっておきまして、広島ブランド力を上げるためのショップと位置づけてやっております。TAUというお店なのですが、それなりにお客様は来ていただいておりますが、銀座かいわいは、新橋も含めて、あるいは日本橋も含めて、非常にたくさんショップが集まっているところでもあります。

どうも、各県のアンテナショップを回るマニアではないですが……。

○鳥取県知事 おられます。

○広島県知事 いらっしゃるということなので、実は中央区に立地しているショップがスタンプラリーをやっているのですね。

○鳥取県知事 ああ、そうですか。

○広島県知事 港区になりますかね。

○鳥取県知事 港区になる。まあ、似たようなものですが。

○広島県知事 いやいや、そうそう、だから、何か厳しい要件でもあるのですかね、中央区と何とかというのは、何かあんまり関係なく広げればいいのかと思うので。

○鳥取県知事 うちの隣が愛媛ですからね。

○広島県知事 ああ、そうですか。

○鳥取県知事 愛媛、香川が隣にありまして。

○広島県知事 なるほど、なるほど。ちょっと広げて、いや、どうせ、銀座でも離れているから、別にみんなそこだけで回れるという話でもないの。

○鳥取県知事 スタンプラリーは今までも、我々も島根県さんなどとやったこともございまして、そこらも含めて、話し合いをさせていただければいいかと思います。

○広島県知事 そうですね。もちろんスタンプラリーだけではなくて、いろんなそれぞれの、何かの季節とか……。

○鳥取県知事 何かマーケティングにしてね、季節感で。

○広島県知事 何かのフルーツだとか、そういうテーマでの連携もあっていいと思いますし、広島県のショップ、TAUの中にはイベントスペースもありますので、そこも活用しながらやるとか、あるいは、お酒の試飲コーナーもあるのですよ。

○鳥取県知事 ああ、お酒ね。酒どころですね、広島は。

○広島県知事 そうそう。そういうところで、例えば持ち寄っていただいて……。

○鳥取県知事 そうですね。

○広島県知事 非常に禁断のパンドラの箱ですが、飲み比べをやるとかですね。

○鳥取県知事 ああ、いいですね。それはでは。

○広島県知事 いろいろ考えられますので。

○鳥取県知事 ちょっと事業者、お互い絡めていると思いますから、ぜひ話し合いをさせていただきますようお願いしたいと思います。

○広島県知事 はい。あと、我々の方から一つございまして、今度尾道……。

○鳥取県知事 尾道松江線。

○広島県知事 尾道松江線がいよいよ、三次から、今年度中に開通することになりまして、広島からの、特に鳥取西部のアクセスが非常によくなってくると思います。これの活用を、ぜひ協力してできないかなと思っているのですが、例えば広域観光でいうと、このルート、これがもっと尾道までつながると、さらにということになるのですけれども、それは、花がこの辺結構……。

○鳥取県知事 ああ、世羅は、世羅まではつながってないですね、まだ。

○広島県知事 下の方はまだなのですが、ただ、いずれにしてもそれに向けて、もう2年後になるので、世羅があつて、それから松江もイングリッシュガーデンとか……。

○鳥取県知事 牡丹園とかね、そうですね、ありますね。

○広島県知事 花の郷とかですね。鳥取も花回廊ですか。

○鳥取県知事 はい。

○広島県知事 というのもあるとお伺いしておりますので、結構花がテーマであったりするのかなとも思うのです。

○鳥取県知事 そうですね。

○広島県知事 そういふことであるとか、物流もやっぱり結節点になっていきます、山陽、山陰の、そういったものの活用であるとか、あるいは防災の観点からの活用、こういったことも考えられるので、ぜひ尾道松江線の利用促進も一緒に検討できればなと思っております。

○鳥取県知事 花の関係で、この機会に、もっと一緒になってPRしてもいいかもしれませんね。例えば世羅のシバザクラですか、毎年NHKのニュースなどでよくやっている、美しいところがあります。私どもは、おっしゃったように花回廊が、ちょうど米子からほど近い南部町、伯耆町にありまし

て、来年は植樹祭の会場にもなるところです。さらに、広島に一番近い町で日南町というところがあるのですが、ここもフラワーガーデンがあります。そういうことと、例えばその中でも、一番大きいのは、広島は世羅になるのですか。

○広島県知事 そうですね、世羅は複数ありますので。

○鳥取県知事 ああ、複数あるのですか。

○広島県知事 ええ、観光花園というか、観光農園が複数ありますので、規模的には世羅が大きいかもしれないですね。

○鳥取県知事 花と一緒に、花の道みたいな、花の観光地みたいなイメージで……。

○広島県知事 そうですね。

○鳥取県知事 中国山地をまたいで観光地化できると、新しい需要を掘り起こすように思います。

特に季節があるもので、その季節、私どもでいうと、花回廊のメインフラワーはユリの花です。それから、あとチューリップでは、オランダのキューケンホフ公園と姉妹提携をして、これも特徴ある花畑をつくっています。

そういう意味で、季節ごとに、ここに行ったらいいですよみたいな、そういう花便りみたいな組み方をお互い、島根県も絡んでもいいと思いますし、できればおもしろいのではないかと思います。

○広島県知事 そうですね。関西圏からお客さんが引っ張ってこられたら非常にいいと思いますし。

○鳥取県知事 そうですね、ええ。

○広島県知事 もちろん地元の皆さんにも、その季節ごとに、いろいろ行っていただくというのはいいかなと思います。

ちょうど備北丘陵公園というのが真ん中にもあるのですが。

○鳥取県知事 何市になるのですか。

○広島県知事 それは庄原です。

○鳥取県知事 では近いですね、庄原。

○広島県知事 そこも、これは国立の公園ですけれども、スイセンの畑とか、100万本かな、ぐらい季節で咲かせたり、あとお花畑をつくったりとか、そういうものもありますし、そういう意味では、非常にいろいろあるかと。

あと、フルーツもそうですね。フルーツもこの沿線にたくさんいろいろありますので、フルーツ・アンド・フラワー。

○鳥取県知事 ああ、なるほどね。例えばフラワーベルトみたいな、そういう何かゾーニングもして、アイデンティティー、C Iをやっていく。

○広島県知事 フラワーカントリーとかね。

○鳥取県知事 いいかもしれませんね、フラワーカントリー。

これは、どうしましょう、ではお互いの観光ですか。

○広島県知事 そうですね、はい。

○鳥取県知事 観光部局を中心に、では相談させていただくということで。

○広島県知事 はい。ちなみに、食も、これがずっと尾道までつながればですけども、さらにそこからずっと行くと四国につながっていく。

○鳥取県知事 四国、はい。

○広島県知事 日本海から瀬戸内海通って太平洋まで行くという、こういうルートになってくるのですね。三海の食べ物と二山の珍味を集めて、このルートで展開。

今、実は今年、そういうイベントをやったりしてまして、それこそカツオのたたきから日本海のノドグロまで集めたりして……。

○鳥取県知事 そうですね、はいはい。

○広島県知事 そんなこともあるかなと思います。

○鳥取県知事 そうですね、ぜひそれは、では食の方も含めてゾーニングを、尾道松江線の開通に合わせて、広域的な振興ができるように協議をさせていただきたいと思います。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 では、次の話題をいいですか。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 福祉分野について、連携強化できないかということではありますが、今イクメン知事として、イクメンも兼ねているのでしょうか。

○広島県知事 いえいえ。

○鳥取県知事 有名な湯崎知事でいらっしやいまして、先般も米子の方にお越しいただき、シンポジウムをさせていただきました。

子育て支援が、広島県、そういう意味で今、非常に熱心に取り組まれて、子育ての育児休暇の取得率も、知事のリーダーシップで急速に上がったと伺いました。私ども鳥取県も、中学生まで医療費を無料化するとか、全国でも割と先鋭的な子育て施策をやっています。

その意味で、これは一つの提案でありますけれども、少し子育て施策にとんがって、2つの県で先

導的な施策を引っ張ってはどうかと。さらには仲間を募って、何だったら三重県の鈴木さんも今、育児休暇をとったりして、育休に入られたりしましたけれども、そういう志のあるところと一緒にあって、こういう子育て施策を掘り下げて、お互い交換をしたりやっていくことはできないだろうか。いわば子育て同盟のような連携を組織的にやってみたらいいのではないかなと。

最終的には県民の皆様幸せに還元をしていくという考え方なのですが、一つには、こういう子育て同盟に参加できるような、ちゃんとした施策をやっているぞというところを、我々の方で若干声かけをさせていただいて、子育て地域サミットみたいな首長会議や、あるいは担当者の交流会議などをやったり、それにかかわる人材の交流会議をやったらどうかと思います。

あわせて、ファザーリングフォーラムを米子で12月に開きますので、11月の末かな、ぜひ湯崎知事にも御賛同いただきたいと主催者側も申しておりますので、お聞き届けをいただければありがたいと思います。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 もう1点は障がい者施策であります。これも去年の広島での会議で、急遽タイトルに浮上したわけですが、知事の御指導も得まして、あいサポート運動が広島に広がることになり、その施策も幅を持ったと思います。

ぜひ今年、今回開かれる、次の広島における、美術館を使わせてくださるそうなのですが、あいサポートのアート展を成功させたいと思います。ここに今、私どもや島根県さんも加わられると思いますが、そういう障がい者アート、ブリュット・アートの発表の場をつくっていきたいと思います。

我々の方で、また来年、その大会を引き継がせていただき、さらに平成26年には、全国の障がい者の芸術祭を開催したいと考えております。

ぜひ御協力をいただいて、こういう障がい者の活躍の場、これを両県、リーダーシップをとって花開かせていただけないだろうかと思います。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 また、あいサポートの運動を展開して、一層こういう障がい者の施策の拡充も、子育てとあわせて交流できればと思っております。

○広島県知事 子育てについては、まず今年の3月にイクメンフォーラムが開催されて、本当は私、行きたかったのですが、ちょっと行けなかったので、ビデオメッセージを出させていただきまして、また12月のファザーリングフォーラムも、1日は今バッティングする日程が入っていますけれども、ちょっと調整ができるかどうか検討もして、まあいずれか何か……。

○鳥取県知事 短時間でも、うちの主催者の方にも今、申しています。余り長い拘束にならないよう

な、あるいは時間帯も工夫できるかどうか、ちょっと我々の方も考えます。

○広島県知事 はい。ただ、いずれにしても御協力は、ぜひさせていただきたいと思います。

子育てについては、今、みんなで育てる広島県と、広島県方式ということをやっている、いろんなことをやっています、例えば、今ここにあるような、子育て応援ということで、イクちゃんサービスというのをやったりとか。このイクちゃんサービスというのは、例えば、イクちゃんというのはこのマークなのですが、これを出してもらって、そこへ行くと、例えば赤ちゃん用のミルクのお湯をくれますとか、何かサービスしてあげますということをやっていますし、あと、バリアフリーとか、おむつ台とか、あるいは子ども用のトイレの整備を進めたり、そういうこともやっていますし、あと、いろんな相談事業であるとか、あるいは、先ほどおっしゃっていただいたような男性の育児休業の推進をやっているのですけれども、これぜひ意見交換なり情報交換をして、それぞれ取り入れられるところは取り入れたらいいのではないかと思いますし、共同の名前で進めるとか、あるいは特にイクちゃんサービスですね、同じマークを使うというのは、なかなか難しいかもしれませんが。

○鳥取県知事 「ひ」ですね。私は平井の「ひ」でいいです（笑声）。

○広島県知事 中国地方で共通だと、これもわかりやすいものがあるかなという。

○鳥取県知事 そうですね。私どもも、実はパスポートというのをやっています。それは広島県のこれと同じなのですかね。

○広島県知事 パスポート。

○鳥取県知事 パスポートというのは、それを持っていると、ミルクのお湯を差し上げますよとか、そういうサービスを得られたり、お店の割引を受けられたりという。

○広島県知事 なるほど。我々は、サービスを受ける方は、それは特に何も必要はない。

○鳥取県知事 何もないですか、お店の方で用意してくれる。

○広島県知事 そうそう、受け側だけでやっていただける。子どもがいれば、もう明らかですから。それで、やってもらうということにしていますね。

○鳥取県知事 例えば、うちの方の子育て応援パスポートとこの運動、相互乗り入れはできないのですかね。

○広島県知事 そうですね。

○鳥取県知事 イメージをもうちょっとはっきり、今、資料はないかな。また後で、事務的には調整させていただきますが、実は、子育て応援パスポートのマークがございまして、それをつけているお店に行きますと、例えばドリンクサービスですとか、レストランで。

○広島県知事 中身は同じですね、そういう意味では。

○鳥取県知事 それで、これとパスポート運動とをドッキングさせて、広島の方も、パスポートのお店で、何か一つ工夫があるとサービスが受けられるとか、そういうことはできますかね。あるいは、うちがパスポート持っていったら……。

○広島県知事 いや、なくても大丈夫です。（笑声）

○鳥取県知事 なくても大丈夫です。広島県民だと言えばいいということですか。

○広島県知事 免許証を持って行って、子どもがいたらオーケーとか。

○鳥取県知事 それは可能かもしれないですが。パスポートがないといけないのかな。ちょっと、では調整させていただいて。

だから、広島県の人でも鳥取県内で同じサービスを受けられるとか、鳥取県の子育て世代も広島でサービスを受けられるとか、それは可能かなと思いますね。

○広島県知事 そうですね、はい。

それから、障がい者の方については、おかげさまであいサポートの企業も随分ふえまして、何社になったか、今わからないね。かなりふえてきて、この間も……。

○鳥取県知事 それは、我々も聞いています。

○広島県知事 毎回認定はするのですが……。

○鳥取県知事 そうそう、大変なのです。

○広島県知事 何十社も来て。でも、おかげさまで非常に浸透してまいりました。

○鳥取県知事 もう6万人以上になりましたね、あいサポーターも。

○広島県知事 そうですね。

○鳥取県知事 本当に広島県のおかげで。

○広島県知事 アート展も、おっしゃったように、来年の1月22日から27日まで、県立美術館で行いますので、今その準備をしているところですけども、また3県で、勉強しながらできればと思います。

○鳥取県知事 そうですね。

○広島県知事 来年の……。

○鳥取県知事 来年は鳥取で。

○広島県知事 鳥取の方でも、我々御協力させていただきたいと思いますし、舞台芸術とか音楽ですね、こっちの方でも広島、できると思いますので。

○鳥取県知事 ああ、そうですか。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 今年もですか、来年ですか。

○広島県知事 これは来年、今年もか。今年はまだですよ。来年です。計画されていると思うのですけれども、そういう面でも。

○鳥取県知事 ええ、それを再来年のときには、舞台芸術も含めて全国大会をやると。

○広島県知事 そうですね、はい。

○鳥取県知事 ぜひ参加していただいて。

○広島県知事 はい、そういう方向で検討していきたいと思っています。

○鳥取県知事 そういうふうには福祉でも連携が広まれば、ありがたいと思います。

○鳥取県知事 それで、そのほか何かあればということなのですが、私の方から若干申し上げますと、先ほどの松江尾道線が非常にシンボリックだと思うのです。こういうようなことで、国土構造を変えていくことは必要かなと思います。

パネルがございますけれども、広島県、それから鳥取県、まだまだ尾道松江線を含めてミッシングリンクがあります。これをぜひつなげていってハイウエーをやっていくと。その考え方としては、山陽側の軸、それから山陰側の軸、それからこれをつないでいく縦軸、これらをグリッド状に整備をしていくことで、中国地方の骨格をつくっていく必要があるのではないかなと思います。

先般も、全国知事会で、日本の再生のグランドデザインを考えたわけではありますが、そのときにもありましたが、太平洋ベルトとあわせて、そういう日本海側国土軸や新太平洋国土軸、さらに北東に向けた東北の被災地の国土軸、これらをつくっていく、それで日本をもう一度、安全な防災体制をできる骨格に変えていくという議論をしております。その一環で、ぜひ、このことも御理解をいただければと思います。

また、あわせて、鉄道的高速化につきましても、従来からの山陰新幹線構想もありますし、それからフリーゲージトレインを初めとした高速化の動きもございまして、いろいろと中国地方全体でも議論をさせていただければありがたいなと思っています。

いずれにいたしましても、もちろん議論には中・長期的なこと、それから短期的なこと、いろいろあると思います。ミッシングリンクは、ごく身近な目の届く範囲の問題として、早急に片づけなければいけません。また、鉄道の話は、今まだ長崎や北海道や北陸やらがつくっている最中でありまして、まだちょっと先の話になろうかと思いますが、冷静な議論をしながら、国家観をみんなでこしらえていければありがたいなと思っていますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

○広島県知事 高速道路については、私はやはりつながらないと、つまりネットワーク化されないと、本当にその有効性を十分に発揮できないと思っておりますし、今、防災の観点から重要だというお話を平井知事におっしゃっていただいたのですが、もちろん防災というのも重要だと思うのですが、私は、今や、やはり高速道路を使った物流、それから人の移動を含めて、もう基本的な、いわゆるミニマムスタンダードとしてのインフラとして位置づけられるべきなのではないかと個人的には思っております。つまり、県内の移動についても、やはり主要な地域を高速道路で結んでいると。なおかつ、それが他地域とネットワークでつながっていると、これが基本、必要だと思います。というのは、もう既に、例えばコンビニとか、あるいは普通のスーパーの物流、あるいは産業の物流にしても、もう高速道路で物を運んでいくということがスタンダードになっているわけですよね。逆に言うと、それが無い地域というのは、非常に条件不利地域として扱われてしまうということで、それが過疎化に拍車をかけていたり、そういうことにつながっている面もあると思います。

そういう意味で、基本的なインフラとして、やはりきちっと整備をしていくべきであるという主張を、私は堂々とするべきではないかと思うのですね。そういう意味で、特に山陰側のミッシングリンクを早くつなげていくというのは、広島県としても主張していきたいと思っていますし、実は来週…今週か、自治体学会が広島県であるのですが……。

○鳥取県知事 ああ、そうですか。

○広島県知事 そこで講演する予定になっているのですが、もう今の日本の新しい発展の課題を考えたときに、今、東京の外環道とか、1兆2,000億かけて整備しようとしているのですよね。東京をそんなに便利にしてどうするのかと。そんなものを金をかけてつくるぐらいなら、山陰道をまずつなげなさいということをおっしゃるかと思っています。

○鳥取県知事 それで山陰道が5本ぐらいできますよ。

○広島県知事 いや、そうでしょう。それで、確かに東京は使う人口も多いかもしれないけれども、今はもう既に相当便利なわけで、それをさらに便利にして、そこにさらに集中させるようなことをしてどうする、どういう意味があるのかと。さらに集中すると、そこは災害に弱くなるわけで、そんなことをしても意味ないのではないかということ、やっぱり我々、声高に言っていかなければいけないのではないかなと思うのですよ。そういう意味では、道路というのが、やはり第一プライオリティーとして、私は主張していくべきかなと思っています。

他方で、鉄道の方は、おっしゃられたように、少し長期的というか、やっぱり財政のこともきちっと考えて、プライオリティーづけした整備というのが必要だと思いますので、そういう意味では、私としては、やっぱりまずミッシングリンクの解消ですね。

○鳥取県知事 そうですね。あと、それにつながる港湾ですか、外港、内港のね。

○広島県知事 ええ、そうですね。

○鳥取県知事 これも瀬戸内海側と日本海側とのそれぞれ役割があって、その役割を両方きちんと発揮するようになると、中国地方全体が強くなるということですね。

○広島県知事 そうですね。そういう意味では、中国地方全体をにらんだ物流コストの最適化ということを考えて、いろんな整備も進める必要があるのではないかなと思いますよね。

とにかく、もう東京に投資するのはやめなさいと。

○鳥取県知事 そうそう。いや、もっと分散といいますかですね。

○広島県知事 そうそう。

○鳥取県知事 今、第二首都構想を持ち出すと、東京都がたちまち警戒するわけでありませけれども、ただ、少なくとも、アメリカとかドイツのような連邦国家のように、それぞれに極があって、それぞれに活力があると。その方が災害に対するリスクを考えますと、国土計画としては健全だと思います。

○広島県知事 そうですね。

○鳥取県知事 その辺をしっかりと主張していくべきだと思うのです。

○広島県知事 そうですね。霞が関と永田町は要らないでしょう。

○鳥取県知事 要らないですね。

○広島県知事 別に首都はあそこにあっていいから、あそこに固まっておいてもらって、そうではなくて、そこが持っている権限を分ければ、自動的に、首都はここなのだけれども、権限が分かれば、首都がやられても、それぞれが機能するわけですし、インフラなり経済機能なりがそれぞれのところにしっかりとあれば、そんなに問題ではない。全部集中するから、やっぱり問題で、それをバックアップするぐらいのバックアップ構想、バックアップというのは、ふだん機能してないわけですから、ものすごく無駄なのですよ。ふだん機能するものを、いっぱいのもにつくればいいではないかというのを私は思うのですが。

○鳥取県知事 そうですね。環境省が、何で一番環境の悪い東京にあるのかと。（笑声）

○広島県知事 いや、でも環境省はいいのですよ。

○鳥取県知事 環境省はいいの？

○広島県知事 環境省はあそこにいてもらって、（笑声）我々は中国地方の環境を我々でさばけるようにする。

○鳥取県知事 それは分権ですね、分権ですよ。

○広島県知事 分権ということです。そしたら、環境省がつぶれても、我々の環境はちゃんと守られ

て、守ることができますから。

○鳥取県知事 確かにそうやって、地方分権をぜひ力強く推進していく、そのためにも、中国地方は非常にコンパクトで多様性がありますから、いいモデルになり得ると思いますので。

○広島県知事 そうですね。

○鳥取県知事 ぜひ広島県とタイアップしてやりたいと思います。よろしく願い申し上げたいと思います。

○鳥取県知事 あと、知事の方から何か論点はありますか。

○広島県知事 そうですね。私から申し上げるとすると、最後、来年菓子博をやるので、よろしく願いしますということで。

○鳥取県知事 菓子博、はいはい。ぜひ盛り上げましょう。だから、そういう意味で、「おかしい」という発想で。

○広島県知事 おかしい、おかしいい。

○鳥取県知事 おかしいいと。

○広島県知事 おかしいい。

○鳥取県知事 柿とか、カキとかも含めて。

○広島県知事 そうですね。ちょうど菓子博がありまして、それからデスティネーションキャンペーンもあるのですよ、これに引き続いて。

○鳥取県知事 来年ですか。

○広島県知事 来年。

○鳥取県知事 ああ、そうですか。

○広島県知事 その後で、7月というか、デスティネーションキャンペーンの最中なのですけれども、平和コンサートもやる予定にしていまして。

○鳥取県知事 それは夏ですか。

○広島県知事 これは8月6日の直前、2週間ぐらい期間をとってやるのですが、これは世界のトップアーティストに来てもらって、ボランティアベースで来てもらって、平和のメッセージを発信しながら皆さんに音楽を楽しんでいただくという、そういう企画をしておりますので、いろいろメジロ押しなので、ぜひおいでいただければと思います。

○鳥取県知事 わかりました。

では、まんが博にも、皆様お誘い合わせの上、来ていただくと。

今日、本物の妖怪に会っていただきたかったのですが、時間がないので、とりあえず「妖怪の森」でお楽しみをいただきました。

○広島県知事 いや、結構どきどきしました。

○鳥取県知事 夜になると、本物の妖怪が出てきますから、次回また、夜を兼ねて来ていただければと思います。

○広島県知事 そうですね、はい。

○鳥取県知事 どうもありがとうございました。

○広島県知事 どうもどうも、ありがとうございます。

○司会 それでは、これで会議を終了したいと思います。

第2回鳥取・広島両県知事会議（記者会見）

○司会 引き続き、記者会見を行います。

御質問等がございましたら、社名、氏名をおっしゃっていただいて、御質問をお願いしたいと思います思います。

それでは、何か御質問。

どうぞ。

○記者（日本海新聞） よろしくお願ひします。

今日の会談の成果、合意できた事柄について、お互いにそれぞれ重要と思われるものを幾つか上げていただけますか。

○鳥取県知事 ちょっとテレビの用意をして……。

では、私から先に言っていていいですか。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 今日は湯崎知事をお招きしまして、何点か重要な合意が得られたと思います。

まだ、ちょっとお互いに、これからまた事務ベースでも話し合いをされるでしょうから、どうやってもっとクオリファイなものにしていくかということであるかと思いますが、まず1つには、広域連合について推進をしていこうという方向性は一致したと思います。これから中国地方各県で首長の交代時期が迫っておりまして、新しい時代を2人で一緒につくっていこうと、固い誓いを立て合うことができたと思います。持ち寄るべき事務、すなわち防災とか医療のみならず、ほかにももっと広げていくという方向性、また、中国地方としても、地方環境事務所の移譲も四国と話し合いながら求めていこうという点、このようなことで一致できたのではないかと思います。

11月に中国地方の知事会が開かれます。また、それに先立ちまして、10月に中四国サミット、首長会議が開催されます。そこで両者で主張していこうと、広島、鳥取の両県としてお話をさせていただくことができました。

また、さまざまな点で広域連携が、今日方向性、合意できたかなと思っています。例えば観光について、鳥取県として国際まんが博を行っておりますし、来年は菓子博が広島で行われます。また、平和のコンサートも開かれるということになります。

こうしたビッグイベントがメジロ押しであることから、両県で、県の広報のページ交換を行っていくという合意が、今日成立できたのではないかなと思います。また、これは詳細詰めていきますが。

また、海外への展開なども、両県でタイアップして海外展開、具体的な事務所とかプロモーション活動だとか、こういうことも共同でやっていく検討をしよう。この辺も一致できたのではないかと思います。

また、中国地方の山陽と山陰とで、地理的には違いがありますがけれども、山陰側の境港を活用してロシアへの出口を模索するとか、そうした産業面での連携についても話し合うことができました。

特にアンテナショップについては、広島県の今、目玉事業として取り組んでおられますが、鳥取県と共同でアピールをしていく、そういうイベント展開などを、今日方向性を話し合うことができました。

もう1つは、お互いの福祉についてであります。子育てについては、両県、先導的な施策をやっていこうという方向性で一致できたと思います。私は、いわば子育て同盟とでも言うべき、共同の運動を起こしていったらどうかなと思うのですが、例えば首長サミットをやるとか、そうしたことも含めて、今日話し合いをさせていただきました。まずは端緒を開いたと思いますので、これから具体的な内容を詰めていければと思っております。

あいサポートの関係でも、芸術祭について、両県で先導的に実施をしていくと、それを協力してやっていくということの合意ができたと思います。

新しい国土形成につきましても、それぞれの県の立場はありますけれども、ミッシングリンクをつないでいくことの重要性など、そうした国土展開を図っていく、東京一極集中を打破していくということできたと考えております。

○広島県知事 基本的には、今、平井知事がおっしゃったとおりかと思っておりますけれども、加えて言うとしたら、尾道松江線の開通に伴った、連携ということもあったかなと思います。また、個別具体的な項目というのはもちろんあるのですが、事務方も含めて、こういう協議をするというのは、日ごろ各県、それぞれ連絡をとり合っているようで、意外とコミュニケーションができていなかったりすることがあるわけですが、そういう、こういう会を機会に、お互いの考えていることがよくわかるということで、この地域を一体的にやはり運営をしていくという今後の方向性の中で、非常によく意思疎通が図られるということで、私はそういう面の成果というのも、やはり非常に大きいのではないかなと思います。

それぞれ、中国地方の中でも、いろんな事情があって、立場が違うことはもちろんあるのですが、これは、例えば広島県内なら県内、あるいは鳥取県内なら県内でも、やはりそういう事情もあるわけですし、そういうところを乗り越えるとか、そういうことも含めて、いろんなコミュニケーションを図って、そしてよりよい地域を目指していくということが非常に大事だと思いますし、今、

我々が進めている地域分権、地方分権というものは、やはりそういうことがベースになっていかないといけませんから、そういう意味での、こういった会の意義というのは非常に高いと思っています。

○記者 尾道松江線の開通をにらんだ連携ということであれば、お話が出ていました……。

○鳥取県知事 フラワーカントリーですね。

○記者 周辺エリアのフラワーカントリー構想のようなもの、あれは両県の事務レベルで……。

○鳥取県知事 これから詰めていこうと。

○記者 これから詰めていくことでよろしいですね。

○広島県知事 そうですね、はい。島根県もまぜてね。

○鳥取県知事 そうですね、それはいいのですかね。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 フラワーカントリーを。

○広島県知事 はい。

○鳥取県知事 島根とも話されていますか。

○広島県知事 ええ、島根とも話ししていますので。

○鳥取県知事 私どもも、日吉津のチューリップ畑などもございますので、できれば花暦のようなことをやったり、共同で全国発信していくと。

○広島県知事 そうですね、はい。

○記者（時事通信） 平井知事に伺います。先ほど、中国広域連合の話の中で、地方環境事務所についても、今後求めていくことで一致できたのではないかというお話がありましたが、6月1日に中国地方知事会がまとめた基本方針の中では、地方環境事務所に関しては、第2段階でそれを求めるという合意になっておりまして、第1段階に経済産業局と、これはさらに前倒ししてやっていきたいといった発言だととらえてよろしいのでしょうか。

○鳥取県知事 これについては、今日、やりとりがあったように、ステップがあります。10月に中四国サミットが開かれます。ここで、両県として、地方環境事務所の移譲についても話し合いのテーブルに出していこうということ、今、話させていただきました。四国側がどうかということだと思います。また、中国地方の各県の考え方もあろうかと思いますが、その辺が中四国サミットで、まず議論をされて、その後、中国地方知事会が11月に開催される予定になっています。この岡山で開かれる中国知事会の中で、この方針について改めて議論をしようということだと思います。

我々としては、今、経済産業局だけの議論をしていますが、地方環境事務所も俎上にのせていくと

いうことで、方向性の一致は見られたのかなと思っております。

○記者（中国新聞） 経済産業局の事務移管によって一番期待されることというのを、それぞれの知事から、ちょっと一言ずついただけますか。

○広島県知事 私は、何よりも、この地方分権のステップを一つ進めるということだと思っております。そもそも、特に中小企業の産業政策というか中小企業対策という面が、経済産業局が結構強いところがあるのですが、中小企業というのは、やはり地域に根づいたところなので、地域の我々が統合的に支援をしていくというのがいいと思っていますから、そういう実質面でも、もちろん非常に意味があると思っています。

さらに、今申し上げたような、これはずっと地方と、それから中央で、いわば闘っていることの話ですから、これを機に、それが一歩進むということが、非常に重要だと思います。

○鳥取県知事 今、湯崎知事がおっしゃったとおりであります。産業クラスターの形成など、既存のそれぞれの県の施策と結びついて展開がしやすくなるのではないかと思います。また、労働施策だとか、農業施策だとか、その辺の県の施策とも結びつきやすくなると。ですから、従来以上に、現在経済産業局がやっている機能が充実し得るのではないかと思います。

○記者（山陰中央テレビ） 経済、その後に道路の分野もあると思いますが、島根県の知事は、高速道路の整備状況も、まだなかなか島根県内で進んでいないということを挙げて、この分野での連携については心配する声も上げておられますが、今、高速道路の整備についても話が出ましたが、その関係についてはどういうふうに考えておられますか。平井知事から。

○鳥取県知事 中国広域連合のことだと思いますが、広域連合として、地方整備局、すなわち高速道路整備を対象にしようということは、現在考えておりません。ですから、島根県さんが特に懸念をされている点については、今、議論の対象から外してあるということです。

ただ、直轄事業はどうなるかという点につきましては、実は先行して関西広域連合が議論をしておりますけれども、国との折衝の中でその状況を申し上げれば、直轄事業の採択権限は大臣に残るので、広域連合がやるのは、実際の工事のところのトンカチといいますか、実際的なところであります。ですから、従来とそう大きく変わるわけではない。ただ、意見の反映が、市町村も含めて平場の議会なり、住民の方との直接の対話が開かれますので、従来以上にガバナンスがよくなると、こういうように理解をしていただければ、そういう不安というのは、本来は解消されていくだろうと思います。

ただ、いずれにいたしましても、中国地方として、今、広域連合の議論の対象からはここは外して
いこうということで、5つの県が話し合っています。

○記者（読売新聞） 3番目に平井さんが言われた海外展開のことというのは、上海の事務所の話と、
それから台湾等のサイクリング等のプロモーションの話ということでいいですか。

○鳥取県知事 湯崎知事にもちょっと確認していただけたらいいと思いますが、今日、方向性として、
これから、では両県で密接に交渉して話をまとめていければというテーマとして、一つは上海展開が
あったと思います。これは今、広島県さんがやろうとされているそうなので、鳥取県もそこに参画さ
せていただけるかどうか、これから話し合いをしたいと思います。

それから、サイクリングについては、いろいろとちょっと微妙なニュアンスの問題があるなという
ことは、今日よくわかりましたが、ただ、両県として、そういうサイクリングの聖地であると、この
ことを共同で国内外に訴えていくという、そういう方向性では一致できたかなと思っております。

でいいですかね。

○広島県知事 そうですね、こういうことだと思うのですね。海外展開ということについては、例え
ばインバウンドの誘客にしても、あるいはそれに伴うプロモーションであるとか、あるいはこちら側
での受け入れということでの、今のサイクリングの体制の整備であるとか、あるいは農産物の輸出で
あるとか、いろんなテーマがあると思うのですね。それぞれのテーマについていろんな事情がありま
すから、それはまた調整をしていかなければいけないことが多々あると思うのですけれども、総合的
に見た場合に、鳥取と広島、これは中国地方全体も含めてということになってくるかとも思いますけ
れども、協力をしながらやるという大きな方向性というのは、これは間違いのないことだと思います
ので、そういった大きな方向性の中で、具体的にどういうことができるかということ、事務方も含
めて詰めていくということではないかなと思います。

○記者 あともう1点、平井さんに聞きますけれども、子育ての共同運動ですね、言われるように。
これは、今日のところでは、両県民が同じサービスを受けられるようなことを検討しましょうかとい
うお話にはなっておるとおもいますが、平井知事のお考えの中には、同じような施策を広島、鳥
取県で共同実施みたいなものが頭にあったのでしょうか。

○鳥取県知事 先ほどの共同実施の例として、イクちゃんをモチーフにした、そういうショップ展開
を広島県がされていると。これを、私どもの子育て応援パスポートという事業があるのですが、それ
と、何らかの形で共同、相互乗り入れしていくと。それで、両県の子育て世代が恩恵、サービスを受
けられるというように、うまくフィットできないだろうかと、こんな話し合いができました。これら

よつと実務的に詰めていかなければなりません、そういう共同事業も含めて、子育て同盟というのを広げていければと思います。

○記者 そのもう一個上には、例えば何らかの制度化みたいなものも。

○鳥取県知事 いろいろと制度要求などもあり得ると思うのですね。今の子育て施策は、国の方はまだ問題が多いと思います。それについて、実務をやっている私たちの方が、いろんな先導的なリーディング事業を始めているわけです。この辺をお互いに共有をしてブラッシュアップしていくと。ちょっと飛び地になるかもしれませんが、子育てに一生懸命、施策的に取り組んでおられる広島県さんに引っ張っていただいて、我々鳥取県も、もう一つのエンジンとして動かしていただいて、ほかにも賛同される県があれば呼びかけて、そういう子育て同盟とでもいうべき協議を、協議体なり組織体をつくっていければという構想を今日お話し申し上げました。余り違和感なく受けてはいただいたのではないかと思いますので、これから議論をさせていただければと思います。

○司会 では、時間になりますので、最後、もしありましたら、お一人。よろしいですか。

では、これで終了させていただきます。どうも本日はありがとうございました。

○鳥取県知事 どうもありがとうございました。

○広島県知事 どうもありがとうございました。